

パナマと日本：120年にわたる友好関係の歩み

作成者：Ritter Diaz、ビジネスコンサルタント

東京、2024年2月1日

1月10日、私と妻は、駐日パナマ共和国大使館のお招きで、日本・パナマ外交関係樹立120周年記念式典に出席させて頂きました。この大変意義深い式典には、日本の経済、社会、文化の各界の著名人、日本の政府関係者、外交団の皆様が出席されました。この記念すべき機会に、両国関係を形成してきたいくつかの重要な出来事を振り返ることが私の役目と考え、筆をとることにしました。

日本は1904年1月7日にパナマと外交関係を樹立し、アジアの国としては初めて、パナマのコロンビアからの独立を承認しました。ラテンアメリカで日本と国交を結んだのは、ペルー（1873年）、メキシコ（1888年）、ブラジル（1895年）、チリ（1897年）、アルゼンチン（1898年）に続きパナマが6カ国目で、これは特筆すべきでしょう。

当時、日本は1868年の明治維新を機に起きた国家近代化のプロセスを経て、東アジア地域の重要なプレーヤーとしてすでに台頭していました。その中で、日本は1895年の日清戦争と1905年の日露戦争で勝利を収め、ヨーロッパの列強（イギリス、フランス、ドイツ、ロシア）や、1853年に開国を強行したアメリカなどの新興勢力と競合し、地域大国としての地位を確固たるものにしていました。

このアジアの覇権をめぐる競争は、最終的に、第二次世界大戦における日本の敗戦と、その後の近代的、民主的、工業的国家としての日本再興を経て、今日に至っています。なお、パナマと日本の関係は、第二次世界大戦中、パナマが米国と同盟を結んでいたために一時断絶しましたが、1953年にサンフランシスコ条約（日本との平和条約）に調印・批准したことで再び外交関係が築かれました。

一方、1904年、パナマ運河の建設と運営を名目に、指定地域の永続的な所有権を米国に認めた悪名高いヘイ・ブナウ・バリヤ条約のもと、パナマは米国の介入下で国家建設のプロセスを開始します。しかし、アメリカによって奪われた土地を奪還するために、パナマ国民は何世代にもわたって争い、1977年のトリホス＝カーター条約調印によりついに完全な主権を獲得し、1999年の運河地帯返還に至りました。

歴史的に見ると、日本とパナマの最初の出会いは、1860年に日本政府代表団がアメリカとの友好通商条約を批准するためにワシントンを訪れた時に遡ります。日本からの旅の途中、代表団はサンフランシスコに立ち寄った後、パナマ市に到着し、地峡横断鉄道でコロンまで地峡を渡り、そこからワシントンに向かいました。

日本政府代表団のメンバーの一人は回顧録の中で、蒸気船と比べて、大洋間鉄道のあまりの音の大きさに衝撃を受けたと記録を残しています。日本人が初めて鉄道に出会ったのはこの時で、このアメリカへの外交使節団派遣から12年後の1872年、東京と横浜を結ぶ初の鉄道路線が開通しました。それ以来、日本は国土全域に在来線(普通電車)と新幹線(高速鉄道)の広範かつ効率的なネットワークを構築してきました。

パナマと日本の2度目の重要な接触は、1904年に結ばれた正式な国交樹立です。この出来事は、パナマ運河の建設で重要な役割を果たした日本人技師、青山士氏がパナマに到着した時期と重なります。青山氏は、測量技師、製図技師、設計技師、副技師長など、さまざまな職責を担っていましたが、その中でも、大西洋側のガトゥン閘門の進入壁の設計と建設が、彼にとって最重要職務でした。

1911年に帰国した青山氏は、内務省に技師として採用され、7年間のパナマ運河工事で得た知識と技術を生かして、洪水防止を目的としたいくつかのプロジェクトに参加しました。特に、荒川放水路の建設を監督し、これによって東京を襲った度重なる洪水に終止符を打ちました。この歴史的な関係は、2000年に東京で行われた荒川放水路ミュージアムとパナマ運河博物館との協力・姉妹提携の調印によってさらに強固なものとなりました。

パナマと日本の関係における3つ目の重要な関わりは、1970年代にパナソニック、ソニー、日立製作所、三菱商事、住友銀行、東京銀行などの大手日本企業がパナマに進出したことです。これらの企業は、パナマの戦略的立地と、多国籍企業に提供される物流、関税、財政、移住の利点を活用し、パナマとラテンアメリカ・カリブ海両地域で事業活動を拡大していきました。

4つ目は、1980年3月、パナマのアリステイデス・ロヨ大統領が来日したことです。この訪問は、パナマの大統領が初めて日本を訪れたという歴史的な出来事で、ロヨ大統領は、日本の国際儀礼の最高位である国賓待遇で迎えられました。そしてこれを機に、1980年代の日本におけるパナマ船籍の登録が大きく進んでいきました。この時期、日本郵船、商船三井、川崎汽船などの日本の大手海運会社は、パナマの柔軟な財政・労働制度を利用し、パナマ管轄下の船舶登録を開始しました。そして、日本はパナマ船籍の最大の利用国となりました。

同時に、日本はパナマ運河のトップユーザーとなり、パナマ運河の近代化を目的とした「パナマ運河代替案調査委員会」(1986年～1993年)に加わるなど、運河に関する様々なプロジェクトに参加しています。2009年のパナマ運河拡張工事の入札では日本は落札を逃したものの、8億米ドルの資金を提供し、プロジェクトに最も貢献した国と言えます。また、パナマックス閘門を通過する船舶の移動に使われる機関車は日本製で、2000年頃から運河で稼働していることも注目するでしょう。

前述のロヨ大統領の訪問に先立ち、両国の海洋における役割を考慮し、パナマ市と今治市は1977

年に姉妹提携を結びました。東京の南、四国に位置する今治市には、日本の主要な造船所が2つあり、同地域の海運会社にサービスを提供するため、パナマ海事庁の技術事務所もあります。

駐日パナマ大使を務めていた2017年、私は姉妹提携40周年を記念して、今治市当局や造船企業の皆様とパナマに訪問する機会を得ました。2019年には、パナマ市建都500周年記念を祝うため、一般財団法人民主音楽協会の支援を得て、パナマ人歌手パトリシア・ヴリエグを日本へ招待し、今治市を含む日本各地でコンサートを開催しました。

パナマと日本の関係におけるもう一つの重要な出来事は、1988年の国際協力機構（JICA）事務所の開設です。これは、日本からパナマへの協力を拡大しただけでなく、両国政府間の結びつきを強化し、JICAは我が国における日本開発の象徴となりました。

パナマにおける日本の協力は、日本人ボランティアの派遣やパナマ人への技術研修の提供だけでなく、パナマ市に住む75万人の住民に下水処理サービスを提供するファン・ディアス下水処理施設の建設（2007～2017年）を含む大規模プロジェクトの実施など、大きな進化を遂げてきました。さらに、2016年に署名された地下鉄3号線（現在建設中）の資金調達と建設に関する協定は、パナマ西部地域の50万人以上の住民の都市移動と生活の質の向上を目指して、現在進行中です。

特筆すべきは、私が交渉プロセス（2015～2016年）に関与したメトロ3号線プロジェクトには、以下の2つの側面があるということです。

- 1) 2013年、岸田文雄外務大臣（当時、現首相）がパナマを初めて訪問（日本の外務大臣訪問は、この時が初めてだった）した際に提案されたこと。
- 2) JICAがラテンアメリカ・カリブ海諸国の一国に対して供与した長期低利貸付によるインフラ・プロジェクトとしては最大規模（26億米ドル）であり、同地域の他国への模範となることが期待されていること。

JICAは、パナマ市民や観光客が美味しいセビーチェを楽しむパナマ市のシンタ・コステラ海産物市場の建設や、パナマ固有のランを保護するヴァレ・デ・アントン野生ラン保護センターの設立にも貢献しました。これらの多大な協力が認められ、2000年にホセ・ミゲル・アレマン外務大臣（当時）が日本を公式訪問した際、外務大臣からJICA理事長に勲章が授与されました。

また、2001年4月に日本の皇室から常陸宮殿下、同妃殿下がパナマをご訪問された歴史的な出来事も忘れてはなりません：両殿下は自然を愛することで知られ、ソベラニア公園でバードウォッチングを楽しまれました。

さらに特筆すべきは、天皇陛下が水に関する事柄に深い関心をお持ちで、パナマ運河にも造詣が深いことです。この点については、駐日パナマ大使として、天皇陛下が皇太子殿下であられたと

きに謁見する機会を頂き、運河の歴史と運営、特に水路の水管理システムについて関心をお持ちであることを伺ったことがあります。

謁見の中で私は、運河の拡張工事が無事終了したこと、そしてパナマ鉄道を題材にしたパナマの歴史小説をお送りすることを陛下に申し上げました。謁見の直後、私は『エル・カバロ・デ・オロ』という小説を、著者であるフアン・デイヴィッド・モルガンのサイン入りでお送りしました。驚いたことに、陛下は私に、英国オックスフォードへご留学されていた時に陛下が書かれた『交通路としてのテムズ川：18世紀のテムズ川上流における航海と交通の研究』を送ってくださいました。天皇陛下の河川交通への情熱が、パナマ運河への高い評価につながったのは間違いないでしょう。

陛下のお話にあったもう一つの興味深い点は、パナマ大統領の初来日の際に上皇陛下(当時の天皇陛下)が主催されたレセプションへのご出席が、皇太子殿下としての初公務であり、良い思い出だとお話しくださったことです。

パナマと日本之间存在する多くの有益な関係に加え、両国にはたくさんの共通点があることも言及しておきましょう。パナマと日本はともに海に面した国であり、このことが両国の発展と結束に大きな影響を及ぼしていると考えられます。両国民は米を主食とし、そのことに親近感を抱いており、また、自国の文化的伝統に強い敬意と愛着を持つ国民性も、両国の共通点だと言えます。

もう一つの共通点は、自然に対する感謝の念です。日本とパナマはともに、それぞれの雄大な自然、特に壮大な山に深い敬愛の念を抱いています：富士山は3,776メートル、バルー火山は3,474メートル。これらの印象的な山々は両国民にとってインスピレーションの源であり、両国が大切にしている自然の美しさの象徴でもあります。

政治・社会面では、両国は民主主義、自由市場、法の支配、人権尊重へのコミットメントを共有しています。これらの基本的価値観はそれぞれの社会の柱であり、自国の発展と安定に貢献してきました。さらに両国は、グローバルな課題に対処するため、国際的な場でも緊密に協力しています。

パナマと日本のこの120年にわたる関係は、間違いなく、進歩と協力に向けた共同歩調の証であり、このたびのパナマ旅券の査証免除協定により、パナマから日本への観光が促進され、様々な分野における人的交流が盛んになることでしょう。

この歴史的にも重要な瞬間に際し、パナマと日本に心からご祝詞申し上げます。

訳：ディアス畑田 紋奈

私の記事は、家族、友人、知人、そして市民に向けたもので、時事問題を考察し、議論を刺激することを目的としている。

参考文献

“La guerra ruso-japonesa, un conflicto total que conmocionó al mundo”, Atsushi Kawai, nippon.com, 5 de septiembre de 2022, retrieved on January 5 2024.

<https://www.nippon.com/es/japan-topics/g02174/>

“Akira Aoyama’s Achievements on Panama Canal Project “, Engineering the Panama Canal. A centennial. Proceeding of Sessions Honoring the 100th Anniversary of the Panama Canal at the ASCE Global Engineering Conference 2014. October 7-11, 2014, Panama City, Panama. Page 358. Retrieved on January 5, 2024.

<https://web.mst.edu/lib-circ/files/Special%20Collections/drogers.pdf>

“Embajador de Panamá en Japón visita el Museo Hermano del Canal Interoceánico de Panamá en Tokio”, Ministerio de Relaciones Exteriores de Panamá, 16 de noviembre de 2012. Retrieved on January 10, 2024.

<https://mire.gob.pa/embajador-de-panama-en-japon-realiza-visita-el-museo-hermano-del-canal-interoceanico-de-panama-en-tokio/>

“ACP suscribe con agencias de crédito contrato de préstamo para el financiamiento de la ampliación del Canal”, Corporación Andina de Fomento (CAF), 9 de diciembre de 2008, retrieved on January 15, 2024.

<https://www.caf.com/es/actualidad/noticias/2008/12/acp-suscribe-con-agencias-de-credito-contrato-de-prestamo-para-el-financiamiento-de-la-ampliacion-del-canal/>

“Japón está interesado en financiar tercera línea del Metro panameño”, Redacción de La Estrella de Panamá, 3 de mayo de 2013, retrieved on January 16, 2024.

<https://www.laestrella.com.pa/panama/nacional/japon-linea-tercera-financiar-interesado-JCLE294184>

“Canciller condecora a presidente de JICA”, Redacción del Panamá América, 23 de agosto de 2000, retrieved on January 20, 2024.

<https://www.panamaamerica.com.pa/nacion/canciller-condecora-presidente-de-jica-47357>

“Japan-Panama Relations (Basic Data)”, Ministry of Foreign Affairs of Japan, July 26, 2023, retrieved on January 23, 2024.

<https://www.mofa.go.jp/region/latin/panama/data.html>

“Príncipes de Japón Observan Aves”, Alfonso Zamora, Panamá América, 23 de abril de 2001, retrieved on January 28, 2024.

<https://www.panamaamerica.com.pa/nacion/principes-de-japon-observan-aves-12113>